

4年 総合的な学習の時間『みんなにやさしい町 西六郷』

単元のめあて

障がいのある方や支える方々との交流や福祉体験活動を通して、感じ方や考え方、生活について知ることで、どのような立場にある人も自分たちと同じように生活を楽しんでいることを理解し、共に暮らすために自分たちにもできることを見付けて実践しようとする事ができる。

創造的な資質・能力の素地を育成するための視点

地域の福祉に携わる人々との対話を大切にし、課題の発見・解決に資する情報収集にすすんで関わろうとする態度を養い、みんなが暮らしやすいまちづくりを自分事として捉え、みんなにやさしいまちづくりについて発信することができるようにする。

創造的な資質・能力の素地を育成するための手立て

実社会で活躍する人との連携

地域の福祉に携わる人にそれぞれの視点から取組や生活の工夫、道具等を話していただき、福祉についての児童の理解を深め、みんなが安全・安心に過ごすことができるやさしいまちづくりのために意識を高め、取組を活発にしていこうという課題意識をもたせた。

- ・大田区福祉協議会（福祉について・点字体験・白杖体験）
- ・大田区地域包括センター（高齢者疑似体験）
- ・View-Net 神奈川（社会モデルについて）
- ・点訳グループ エスカルゴ（点字体験）
- ・相生こどもの手話の会（手話体験）
- ・株式会社トーカイ（車いす体験）
- ・サポートぴあ（白杖体験）

学習サイクルと振り返りの工夫

「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」に則って進めた。全体の課題、個人の課題を設定するために「課題の設定」「情報の収集」は2回行った。

振り返りの際は「Y：やったこと」「W：分かったこと」「G：疑問」「T：次に向けて・友達のこと」を提示して振り返ることで、ゴールに向けて取り組まなくてはならないことを明確にした。また、体験に対して目的意識をもって臨めるように、KWLチャートを用いて整理するようにした。体験→感想・分かったことの共有を繰り返し行い、学んだことを確認するとともに、友達との感じ方やとらえ方の違いにも気付かせるようにした。

グループの編成・話合いの工夫

意欲をもって活動できるように、児童が出し合った項目の中から自分が紹介したいテーマを選んで希望をとり、所属するグループを決めた。グループは、意見を出しやすくするように3～4名で編成した。

どんな記事を書けるかの話合いに自信をもって参加できるように、意見のキーワード・その理由を考える時間を設けた。話合いの視点を設定し、話題が逸れないようにした。意見はKJ法的手法を用いて整理・分類しながら話し合うようにした。話合い中にインターバルをとり、うまく進んでいるチームを紹介したり、決まったことを報告したりする時間を設けることで、うまく話合いが進まないチームが参考にできるようにした。

ICTの活用

「まとめ・表現」では、国語科「新聞づくり」で学習した新聞を使って自分達が体験したことや調べたことを表現する。

文章の修正、グラフやイラストなどの資料の活用、より効果的に魅せる工夫がしやすいことからICTを活用して新聞づくりを行った。

- ・Google：情報を集める
- ・Google ドキュメント：新聞づくり原稿の下書き・情報の収集のメモ
- ・Forms：アンケート作成
- ・オンラインデザインツール：新聞記事割付け

成果と課題

- ・たくさんの人と関り、様々な体験をしたからこそどんなことを伝えたいかを考えることができていた。
- ・話合いの視点を提示して臨んだことで、こどもたちが視点を意識し、話題から逸れずに進めることができていた。
- ・事前に考えをもって話し合いに臨んだことで、自分の意見を伝えることができていたが、意見を出し合った後、話合いが深まらないグループもあった。もっと早い段階で、話合いがスムーズに進んでいるグループを取り上げたりコツを示したりするなど介入してもよかった。
- ・話合いは、体験や学習したことの中で「自分の伝えたいこと」と単純にした方が盛り上がったかもしれない。